

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	包帯2	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	教科書（包帯固定学 一般社団法人 全国柔道整復学校協会 監修― ）に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	難波 英樹		実務経験の有無・職種	有・柔道整復師	
学習目的					
巻軸包帯で骨折等の整復位をいかに保持するのかの研究、患部を毎日診察し、腫脹の状況によって包帯を調整したり、緩まない包帯、腫脹に対応できる包帯はどのようなものかの、洗った包帯を使用すること、包帯の巻き替えの工夫、患部の肢位の確保と転倒防止の配慮等々、先人たちの創意工夫が込められている学問である。この科目では、柔道整復師の施術の方法である固定法の基本を習得し、軟性固定材料や硬性固定材料の理解と作成を学び習得し、患者さんへ基本包帯を巻くことができる、材料を作成できるようになることがねらいである。					
到達目標					
多くの場合、巻き始めや巻き終わりに使う環行帯や第1行に第2行を1/2から2/3重ねて走行する螺旋帯、第1行と第2行の間に間隔をあけて螺旋状に巻いていく蛇行帯、包帯の走行を変更する場合や太さが一定でない部位を巻くときに使用する折転帯、主に屈伸運動を行う関節に用いられる亀甲帯といった基本包帯法の理解や金属副子や副木、厚紙副子といった硬性材料の作成、軟性材料の適切な使用方法を探究する力を身につけるために、軟性・硬性固定材料を理解し習得すること、怪我として患者が来院しやすい主要な骨折・脱臼・捻挫に関し最適な固定が選択できるようにすることを到達目標とする。					
教育方法等					
授業概要	この包帯とは柔道整復師の行う施術法の中に含まれ、患部の安静を図るなどの手段として理解をする学問である。授業形態は、主に実技中心で包帯2では包帯に関しての応用知識を習得し、最適な固定材料の選択の仕方を学び、各部位での最適な固定技術を習得する。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	0%				
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	アルミ副子について		アルミ副子の長所と短所を理解し、手指骨折の固定方法を実技を交えて把握する。		
2回	アルミ副子固定のポイント		実例を挙げ、固定のポイントを明確にし、実技を交えて手指骨折の固定を行える力を養う。		
3回	熱可塑性キャスト材について		プライトンの長所、短所を実技を交えて理解する。		
4回	テーピングについて		第1MP関節尺側の損傷を仮定し、実技を交えてテーピングで固定を行える力を養う。		
5回	手指（PIPJ）や腱鞘炎のテーピング		ド・ケルバン病やばね指、PIPJの損傷を仮定し、実技を交えてテーピングで固定を行える力を養う。		
6回	鎖骨骨折のポイント(1)		デゾー包帯の走行目的を実技を交えて理解する。		
7回	症例報告と三角巾		症例報告をもとに、医接連携について理解をする。また、三角巾の使い方を実技を交えて理解する。		
8回	振り返り(1)		1回～7回までの振り返り		
9回	鎖骨骨折のポイント(2)		デゾー包帯のポイントの整理と実施の確認を行い、固定を行える力を養う。		
10回	肩関節脱臼の固定方法(1)		麦穂帯と三角巾を使い、固定を行える力を養う。		
11回	肩関節脱臼の固定方法(2)		厚紙副子を作製し、麦穂帯と三角巾を使い、より実践での固定を行える力を養う。		
12回	厚紙副子の様々な作製と固定例		肩関節脱臼に限らず、厚紙副子の各損傷の作製の仕方を実技を交えて理解する。		
13回	肘関節後方脱臼の固定法		肘関節脱臼のクラーメル、厚紙、包帯、三角巾を使い、より実践での固定を行える力を養う。		
14回	救護の症例紹介		実際の柔道や災害などでの症例を紹介し、固定の必要性を理解させる。		
15回	振り返り(2)		9回～14回までの振り返り		